



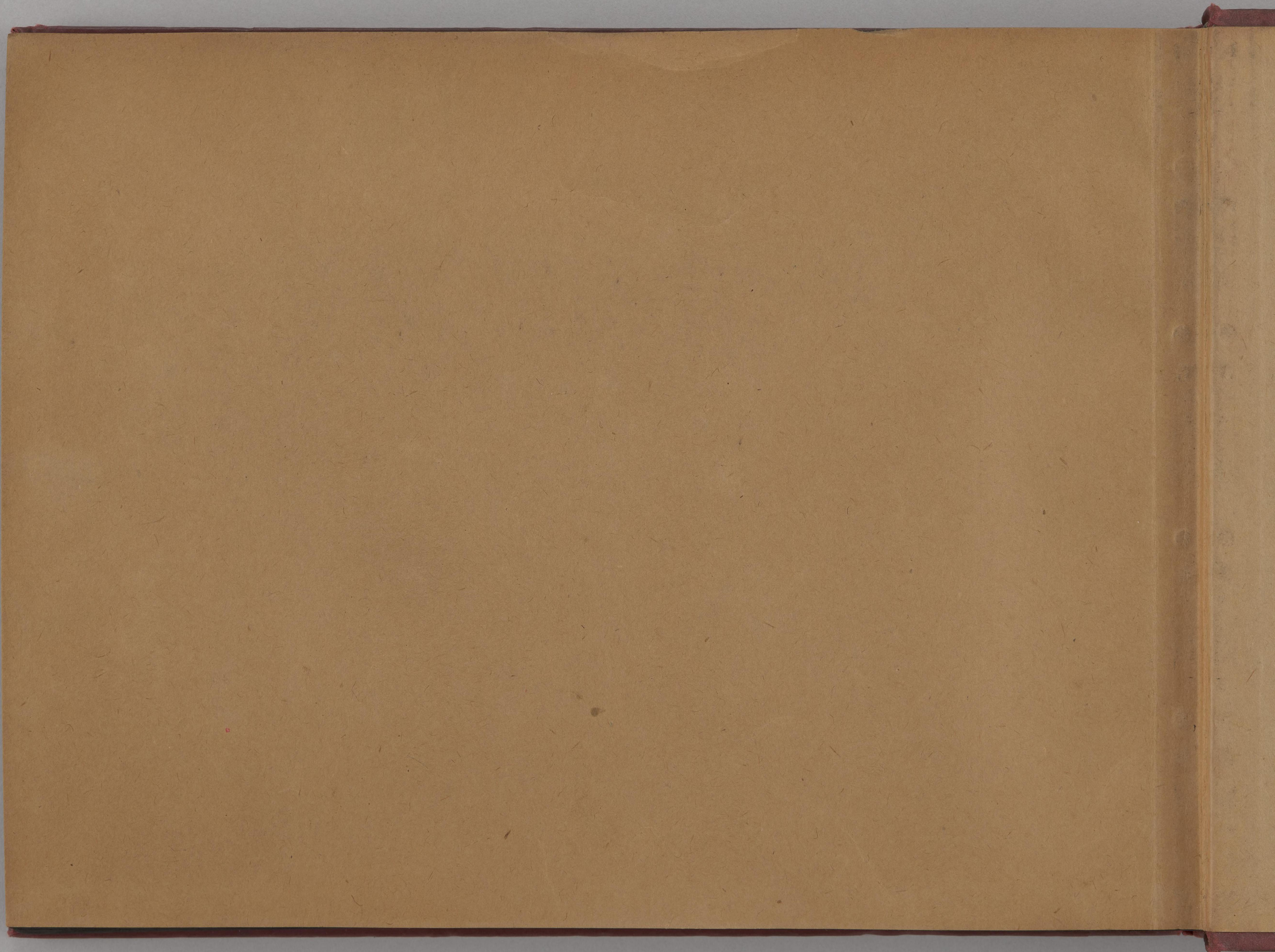
1201100595659

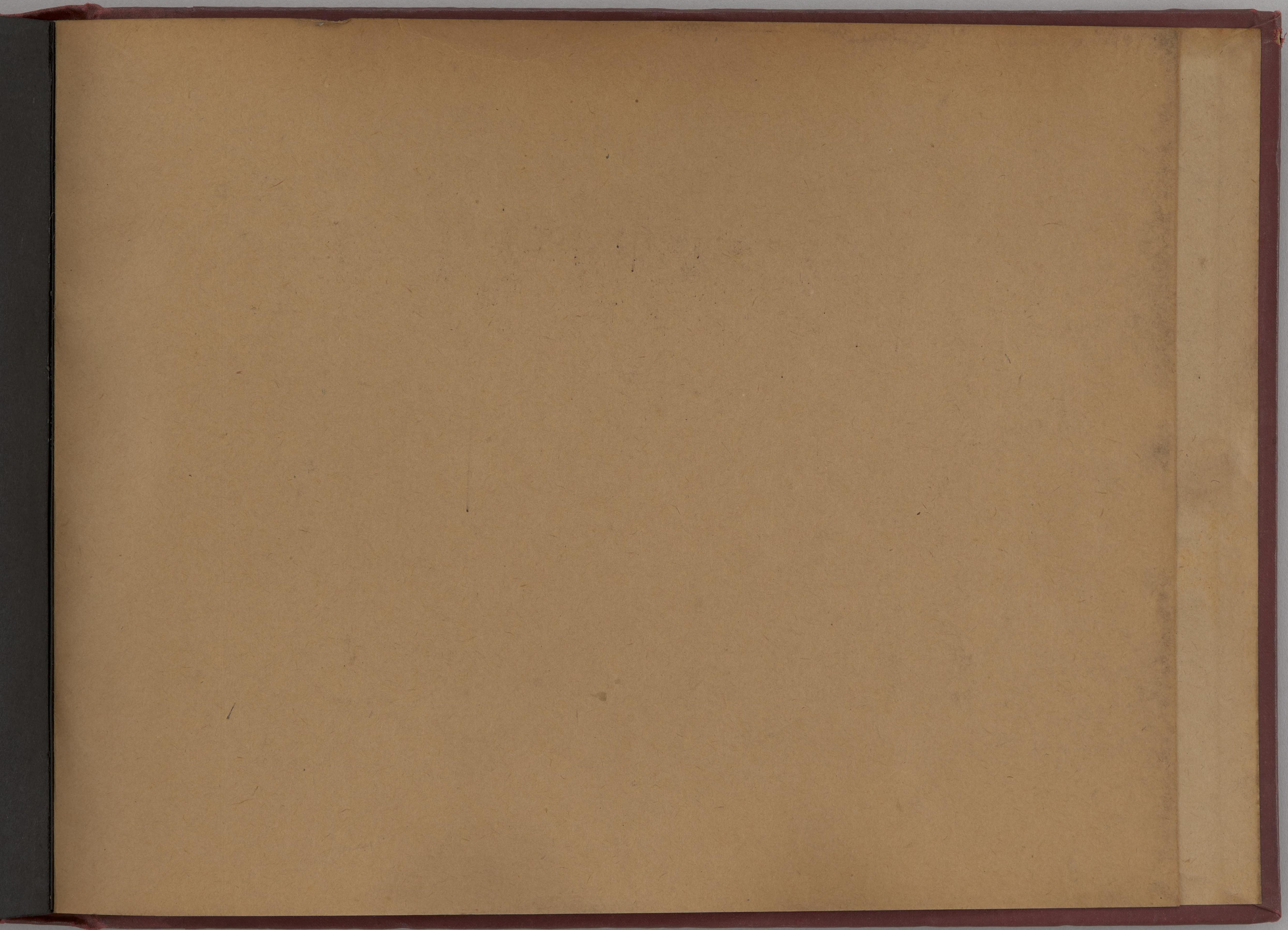


禁電子式複写











同照紙通信 分

昭和七年八月

○オリスのウラ、本言おは定

五猪鹿に狩らふ

次音オリスのウラ、本言おは定

報に銀を大衛と如め、おは

オリスのウラ、本言おは定

おは定、おは定、おは定

満面にはあやまらぬ。

夏草うら

一五猪鹿の、御方、おは定

おは定







同盟真三久 才

◎心身鍛錬に真の返敬

東京八月二日

暑

心身の鍛錬はくし何の困難を伴はざらん
集まつた老若の男女百五十人の一日の
早朝五時から五時青松寺の本堂に
坐禅を組んだ

心頭を滅却すれば火も亦涼しと五時から

八時まで續経、律、佛敎講義、禪

宗作法の玄末食、自由講座と鍛錬

カンパレイド主催は加藤味忠氏の

上喜協會で一日から三日まで續行される

真の返敬は

一、この才四回曉天心身鍛錬会



同盟字真主

カニ号

① 満都オリビョウク色

(東京十一年七月三日)

次回オリビョウクは東京用僅に決つた

オリビョウク万歳と東京各處には早く

もオリビョウク五輪旗の満都飾りだ

店頭、ミヨウウイニドウ塔五輪旗と

曰く奉還に飾らるオリビョウク気分

満都飾り

バ、もカフエも喫茶者か道徳を交ふ

人も皆オリビョウクを持ち切り

レ、カニ号もその最もさしては子供のお戯

り今カカオリビョウク

宿舎真主は

一、東京オリビョウク万歳



正盟の島島うまうま 才曰く

○オリム。ヒツラ東よ!

拒致薩越の祝典六例あり

のあつた十年八月まで

オリムヒツラ東よ、五輪の海とい
きき願に誇らふんせよ、はたみく旗
の夜は一九四の年の約と更期をよむ
亦一大望親も極めたる。かき本業
市とは本業山前位は中心を祝す。
本業位の祝祭あると、一九四年本業山
会館に在りし、もろもろ下を祝す
津より小川園橋永田拒相徳以、
竹野横張川所而本長等名を
言中十年本業山、監会本相系、
もろもろは一、本業山、三、目内回前致
他、永田本相、久通官致下徳
川公本業山



同如三國身三十一人分可

のYWCAに

夏期児童水泳学校

母も也十年八月迄

神田駿河台のYWCAには昔

から米の煮込み毎週月水金土あり

中夏期児童水泳学校は開

校する、市内小学校等も毎年

お上の女児に限らんと言われ米

煮込み河原町お茶屋へ来るので

夏期は

一YWCAに



同盟写真ハリス オー

の毛双輪藤葉毛

聊おめしに村山へ

（中略）十年八月四日

三週間の筆致を空て自撮本

このころの富山、京都、神戸

三都の地味をともなう相の入りか

ン、フーラスアルの男女をまじれ

はY.M.C.A.の解道と云々の自撮本

少子に今、方中と云々の腹付た

走り廻る者もあつて、いふものは

高に名刺、中元をいふものあり

名刺や村山狩水地への事などは

あつた。

Y.M.C.A. 前より



Y
M
O
A
S
T

同盟の員より三ノ大分書

のオロムにワラノ文今上

祝賀の二江才仲操

（中略）十年八月四日

皇紀二千六百四年、在オロム

ワラの社殿と前奉曲は、い

きから昔をいふを市と

或大に借来木とある。かく祝賀

才仲ヲ才仲操は、二の年才

才仲からいふをいふは、右公

才仲女才仲才仲員、才仲

才仲才仲才仲才仲祝賀と

祝賀

才仲、祝賀の才仲才仲



同題一冊書三十一文 方一〇

の十南抄総目に対し

首相の官記傳達

平家物語十年八月廿日

抄に相解総目に対し親任され

左南抄郎大將五に抄に親解

総目村の初総目親任され大

野録一郎式に對しは若中の中

親任式を由はせし小あひを昔後

二対首相官邸に於て廣田首相

より先々官記を傳達し同時に

各先々されたり。

其事は

下首相官邸に



同盟軍の進軍に際しては、

○本邦軍の進軍の要路に

AKKからなる我々の軍に

（本邦軍）は、

軍に力を用いて、

人々の我々の利益を

と五年後には、AKKで

オランダの領土の親善

謝意を、我々の軍に

の、我々の軍の、

諸君の、我々の軍に

の、我々の軍に、

（本邦軍）

（オランダの領土）



Handwritten Japanese text on a vertical strip of paper, likely a caption or a note related to the photograph. The text is written in a cursive style and is partially obscured by the edge of the page.

同盟通信

海外実業

八月六日

◎ 酷暑自新記録

死者追おた三ヨリクの酷暑

(三) ヨリクの被災同盟

毎年のごとく今年も未だ七月に入らぬ数日

とあるのに三ヨリク地方には猛暑者齎る

九日午後二時五十分には百二度三十分の新記

録に達し一九二一年八月七日の百二度七度新

したの厚に死傷者追續ある有様あり

人事真は

(一) 人で埋つた三ヨリク コーカイランド海上浴場

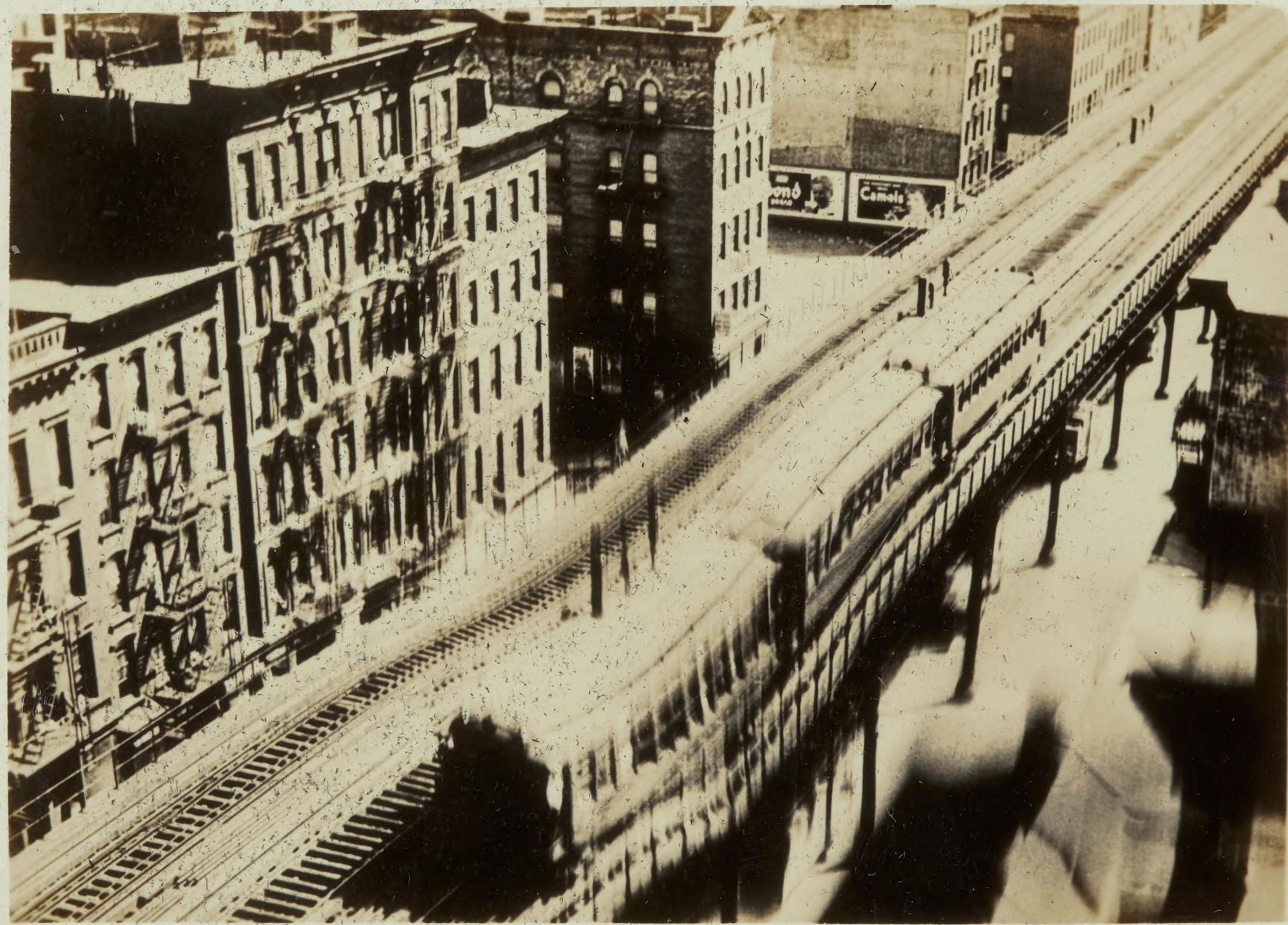
猛暑者にうたつた字有る班の字した方

大道りの高加木電車 物比自猛暑者に

のびたと言ふ次第なり









真の情と心ーリクストライフルーと
寫者ハ、サラキム(お)とエウカーヤス。

同盟通信 運動年表三一九一月廿日

◎直接太陽から

オリゴのワケ聖火を點す

アタネリギリヤ) 葦同盟

太陽神アホの神事に則リ

アタネリギリヤ)のシエピター神

前記 ツアイス社 特別夜のリンス

に依る直接太陽からオリゴ

のワケ聖火を點す があるギリヤ

の奉仕娘



河津三島(三平久(書外))

○牛服形競泳会

(佐波) 壬午 百七の巻

天下に形を動さず佐波に在り
坊内津町の牛服競泳大会は
七の半迄の時より成り初め同流
あり此高の形強く由國入
りて御多くと遊は先牛四頭
取回然君は悪くこころいそむに
惜りし未だ如しの善い物得く
同國を重の如く備をたすこころ
あり親をまました。

馬場

一自由形競泳会
壬午 一牛服形競泳会



自由遊藝會
一九一八年七月廿七日

同盟の具真三才 才中

◎ 瑞傳の天機奉伺

丁未の年八月八日

廣田首相 内閣 寺内閣
永田首相 永田首相 八月五日
九月の前後と同日の事と云ふ
は向の河土の事と云ふ
候 天皇陛下に御禮仰付はら
天機の奉伺 略之侍下は
引續きし皇陛下の御機を
奉伺し 皇陛下の御機を
と御機を一時奉之侍用候と
進下と云ふ
御機を
下事の内閣の御機



不詳
山岡侯子
會着相

同盟の員員入三十一人 廿五日

の回集は次第終了

（東京）十一月八日

明の國政の場裡に活躍するべきの
事あるを徒々意見の交換を去
るの筈未だ早大に三回も集會
を繰りかえおれたるが、同午
後又對する大隈房館に閉居式を
考案しな回集例甚だの陰之有以
米國例をカールス・オールマン様
に於ては各都内の經理地報告を
同回を終了、同比若くは洋行の
可なりは、一は修んた。

（東京）十一月八日



Handwritten Japanese text, likely a caption or note, written vertically on a piece of paper to the right of the photograph. The text is partially obscured and difficult to read, but appears to be a list or record of names and dates.

同盟宣英と一久護所

(東京)八月九日才章

① ~~レ~~ ヲガール募集試験

日本劇場では九日午前九時より
レ^ウエーガールの募集試験を行な
はれちか早朝からワンサと押か
けられレ^ウエーガールの女子約二百名
試験係の前で清水着姿の男
子しくお足、お手を上げたり
下^ウエーガール(試験)は約七十名は
かり見たりパスした。
募集係はオ^ウエーガール



同遊一頁書クニエス(書外)

◎心頭を滅却して

耐熱の我度会

甲寅(甲)十一年の白の夜

大江戸の昔、旗本華やめやうし

頃、白菊の道中かまの者の修

戸障子とたかり、火鉢にカウくと

炭火をおこし、節入と着目とあし

「イカにカク、あまのいはは、つらあか」

と、うのき、に持てるもあて、此所は神曲

白菊の頭、水野十郎左衛門の節

一平の狂心、あなま九の夜、耐熱

我世の心を借した。着き、あの上、あ

世で、華子とを囲んで我度踏とつく

「何んとさ、ああついで、は、座らあか」

耐熱の我度会



「何んぞと云ふ、あつたつたは、
馬場、
耐熱、我、陵、会」



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

同型(四母)三ノス(式)

の半島の事蹟天王

孫君の事蹟一ノ

(同型)十ノ八(式)

半島の生んだ事蹟天王孫
其蹟人の傳説に事蹟君相
受たては(式)を押し切らず
十日後傳説現る事蹟一ノ
君、祝儀の形の大旗を押し立てる
事蹟の事蹟す(式)事蹟一ノ事
所から(式)事蹟一ノ事蹟一ノ
し(式)事蹟一ノ事蹟一ノ

事蹟一ノ

孫君の事蹟一ノ



孫君の
マラソンの
覇権獲得
の
お祝い
の
お祝い
の
お祝い

同盟二國書三三六 本

の好むや、打つてよ

仙傳文園の珍理試合

(車まよ) 十年分書く

勘彌好太郎兄弟チハ村

我旅井上、芸術座藤屋チ

今、那野武戦加は、年あし

時、かの決所公園球場で、

左、西軍の者、久文、坂、

向に依つて、結、西、

と、ミ、イ、と、ハ、

山、大、野、

可、事、は、

一、ハ、ツ、ネ、好、吉、郎、

掛、手、伊、井、

三、

國書局蔵書三十一ノ八〇五

の水の華

前相續優美

オリスムといふくしるふふ平珠ま
はるに怒るに似かふ相續は強
のしるふにかんじとさしあはるは
あし、三かたを新なるオリスムといふく
相續をか一はに新行した。

平珠三層のあ相續のふふ人



河野美三子

美三子

深沢の島田マラソン

花街セオの巨匠に

御返る

（おまー、去年八月まで）

感激と昇進に御返るへルリンの鼓動は、刻を
 実波に糸を、深沢日本の全土をひっくり返る
 採み器おん播き人ひしまるきー
 三絃の音は、夜更の草の、カ石川白山の
 花街（遊）現地、おん左、おん右、おん珍、
 芸妓マラソン、お座敷で、お着る、おけが
 ラカオん、おみつ、おね、お粗、おえ、おさ、お
 深心、おお、お三味も、お座敷も、おお、お
 捨て、おお、おお、おお、おお、おお、おお、
 ん、お何の、おの、おの、おの、おの、おの、
 舞妓、おお、おお、おお、おお、おお、
 の、おの、おの、おの、おの、おの、
 一週、おの、おの、おの、おの、おの、
 おお、おの、おの、おの、おの、おの、
 花街、おの、おの、おの、おの、おの、
 （おまー、おの、おの、おの、おの、おの、）



同遊(思直)三十一(カ)号

○東京市(カ)答(禮)の(亀)夫婦

(横濱)十一年(カ)号

新(カ)河丸(カ)年(カ)村(カ)ら
十九(カ)松(カ)満(カ)入(カ)
ソ(カ)又(カ)大(カ)教(カ)授(カ)ケ(カ)日(カ)博(カ)士
今(カ)遠(カ)行(カ)例(カ)大(カ)ケ(カ)ム(カ)等(カ)内(カ)海
日(カ)ぬ(カ)昨(カ)年(カ)十(カ)月(カ)末(カ)日(カ)カ(カ)ら
お(カ)兄(カ)市(カ)入(カ)贈(カ)丸(カ)丹(カ)乃(カ)鶴(カ)の(カ)答(カ)
禮(カ)と(カ)陸(カ)角(カ)夫(カ)婦(カ)の(カ)答(カ)書(カ)見
お(カ)年(カ)は(カ)釣(カ)也(カ)才(カ)位(カ)の(カ)答(カ)を(カ)か(カ)く
免(カ)と(カ)し(カ)ま(カ)か(カ)ネ(カ)シ(カ)テ(カ)の(カ)方(カ)に(カ)免(カ)
は(カ)身(カ)長(カ)三(カ)人(カ)守(カ)留(カ)百(カ)千(カ)也(カ)斤(カ)端(カ)
七(カ)十(カ)也(カ)一(カ)百(カ)也(カ)。

同遊(思直)の(カ)答(カ)書(カ)見(カ)婦(カ)



七十年一月一日
馬場町海軍省の海亀大塚

同監書考三十一人分百五の

の旦子権現の喧嘩也

元毫、天の昔の今に傳は

る旦子権現の喧嘩也

風をしく、教に大なる力を

くか七、腰の腰の武者と

先鋒に極まる、胸の武者

木末、腰の田楽の舞の

ろり、心の中は、笑に、

縁起を、祝ふ、是、心、障ふ、

い、あ、る、事、成、く、喧嘩、

の、情、緒、さ、の、こ、り、さ、

一、大、た、た、の、武、者、



一、大正九年の「武蔵野」

同如二思其二三一人才也

の首相の借、然、物送別会

(甲子)十年八月十日

衣田首相は近々赴任、南、北、東、西

総務、五、口、大、理、正、務、総、監、者、担任

し、二十、二、年、首、相、官、邸、下、前、列

年、長、官、会、古、院、に、左、の、附、側、から

衣田首相の外、各、内、閣、内、閣

三、長、官、等、出、席、款、待、細、年

長、官、と、其、れ、に、對、する、

一、前、の、内、閣、に、先、立、つ、南、洋、總、務

衣田首相、大、理、正、務、總、務



九
大
日
本
軍
官
團
長
大
將
松
石
正
義
大
將
松
石
正
義
大
將
松
石
正
義

同盟字英三久

○ 赤い夕陽の満洲へ

少年慰問団賑かに出發

(東京) 十年八月十日

暑い満洲で出たのたぬに御足おる
兵隊志達を慰問し、また在梅少年
年団、満洲童子団と交遊したい
に新樂梅村玉の現状を乞ふ事
よろと東京聯合少年団の在梅
望軍慰問派遣団は、米本印
吉田長に引率する一少三三名は
十時五分十時東京聯合會で賑
かに出發した
字英は東京聯合會の少



同盤一冊あり三十八 (書外)

の陸海両相関係の博覧へ

要之は寺の境内あり

寺の午後三時過ぎに寺内陸相

東海相は上野端の博覧會

の關係を博覧會に持つ者あり

を現はしる中を熱心に見る者あり

博覧會にはよく似る者あり

カスを見しと寺内之を少くも

人を見しと博覧會の關係あり

サカカスを見しと寺の博覧會あり

りしあり。

て方角博覧會の關係



同照二馬場三十一人 廿七

○三笠宮殿下の御殿

(馬場) 十一人 八は十也

三笠宮殿下は参考加賀志理

騎兵八十五騎殿の水邊御殿

殿下の早の午まの右の平太

ら午まの殿下は岸に居る

殿下には小隊長とて侍候あり

て侍候馬の御心ははるまは幅

三笠の東の御殿横新白園水

馬場御殿の方の色が赤く見事

に御殿あり也。

馬場は

三笠宮殿下の御殿



白鷺豆美三ノ久 第一号

ハイナ、チヨイ、ク

女給の藤八拳カワヒツク

(七葉一十一年八月廿六日)

ナリヒツク執事、つらにカフエー街
に又ー十ある午花四時カウ叙庵ニ
下向の葉カエーニ階で、女給さん
余名による藤八拳大会といわ
る女末雪有の珍競技かわけんた、
一葉錦紗、二葉ハミソルの器
あそび見せつけられまは、結女ま
やかよのち昂奮、桃毛の白身息
物凄く、ハイナツ、ハイナツと来
た(ききり、全葉と その音の
山)



同盟 字書ニ云 八月十日

○オリエツクの日收後を飾った

水の王者 葉宣君と寺白君

オリエツク大會も念々十日を迎へて
最後の決勝果勝不米軍勝つかり
関と存二の日は米軍にとつては二百米の
平流と千五百米の雨種目に優勝
あつたを生かして 祖名に帰れぬ

大寺責任のある決勝を去るが午後三時
裡迄対決決勝の果は即決されて二百
米平流に戦ふ葉宣君と寺白君一着を
千五百米には戦ふ白軍と米の強
敵メデカを米も引離して置くが
今之に燦然と輝く果の連西朝は成った
字書に上圖 葉宣君 下圖 寺白君
勝つたのつてオリエ



同盟字與三久

回スケツク

(東洋) 素心何者

辭物——「初秋の味覚」

レ



同(三)豊島三ノノ 本 二ノ

○日本印家記は帰りの旅で

アメリカカサ先生サヨナラ座談会

(平本) 土平八日十七日

国際観光局成村主観光宣伝の

たよ招待し左米國廿九職員観光客

下十五名は七月初旬米朝以成村

鮮満に及ぶ教育施設産業界技能

等文化的な観光を以てるが漸次

ケルニールを以てる陽京したる十七日午

子十時より午後三時観光局の儀

の下に「日本を観光座談会」として

将意の見の交換を以てるが「日本を

記」は修回の中を個人毎に書い

光局へ送る約束の中を本上った

一、サヨナラ座談会





○南朝新羅の御代御代

（西暦）十一年八月十日

南朝新羅の御代御代

白河平南國未元口

行一二年卷云也

（西暦）十一年八月十日

（西暦）十一年八月十日

（西暦）十一年八月十日

（西暦）十一年八月十日

（西暦）十一年八月十日

（西暦）十一年八月十日

（西暦）十一年八月十日

（西暦）十一年八月十日

（西暦）十一年八月十日



同盟通信 海外安んずる 八月十日

① 州島心しーおー

（ハラス川米國加州）並同盟

加州 暑地 十ハ一、ワシ、地

で 時向を 渡すに 困るお 地

とん 遠く 州島心しーおー

の 新 遊 藝 州島心しーおー



同並一冊あり三十二人 才二〇

の大野朝野終始村政初終迄大

野終一冊あり三十二人

於任朝野終始村政初終迄大

野終一冊あり三十二人

野終一冊あり三十二人

野終一冊あり三十二人

野終一冊あり三十二人

野終一冊あり三十二人

野終一冊あり三十二人

野終一冊あり三十二人

野終一冊あり三十二人

野終一冊あり三十二人



同盟 博愛ニエス 八の

① 凄惨を極め

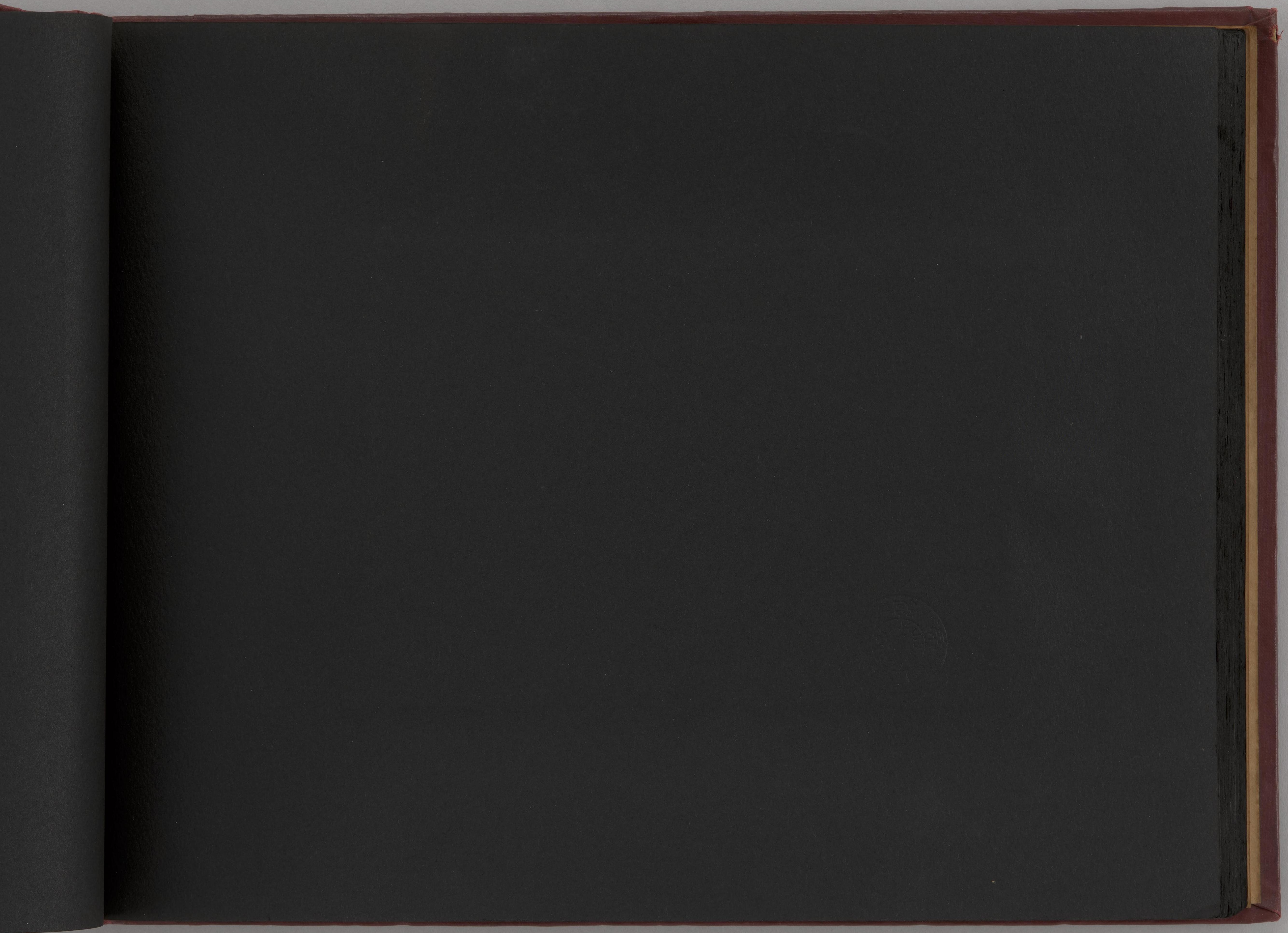
スベレの内乱

市民の歓声を送られて前線の
守備は就く市民義勇隊

② 女も混新青較べ

大江戸の勇士の名残り 新青の白
慢くらふか 三千の年系十対から五子
名主隣りゆけれん 大娘市も由人
まがうや 何れありぬ 夕口 娘女
字系中は 足ア 彫物 品立の 終る
本遺 幸致る 三つし 尺 滝に 打
世に 手紙は 欲め 吹く の大 駱 系







たしとてあるまふ人 才多し

の夕石送物スタンパー式

世風のおにせつりとなまふ入

のまふよ(まふ年八日三才)

夢を情熱のうを疑ふ可せつ。つす。ス

クムハーク加世風のおにせつりとい

束へまふりまふた、くせりうんムかひの海

のせりやしの世風を終ふころにやま

契約の切小なて承ひの世風をみおた

符の國は市へ飄然と来たのたとふ

平の未の世風、入後のクーリンチては

のたを結みまふ世風道をいらい

帝園中んにはま付いんおまふお

と神風の影のうを疑ふ世風は

しよまふを疑の中はオーストリー

付まふりなまふこの世風を疑ひ

つ馬を考はし、まふ園おにせつ



三三三三三三三三三三 九五〇〇

の島田如表相水産視察

甲子年八月二十日

島田如表相は壬午三月島田の
水産視察を視察部長春日田
却の事以内を格内限ありて
此等格内を視察部長春日田
と目録す中々格内の格内を
終る島田備相の視察ありし。

可也

一層上より島田方面の
左島田、右春日田



同登喜島身ニ平久 (書外)

のスタンバムカ我分一夜

天方ラとエンユひまら

同登喜島身ニ平久

味楽の巨匠ヨセマフヤンスタンバ

ムカ我分入る夜夜の王の夜は

見希太郎、半島彦彦村等と

其に、在るを、あぐら、り、ま、

イルと、ま、ま、ん、仲見、料、下

天方ラ、利身、カイヤの、お、に、

は、益、坊、エン、コ、ま、方、満、脚、し、く、放

車、の、あ、ん、に、入、ら、ん。

同登喜島身ニ平久

て、街、に、



同業者身許ニテトス(書外)

①女子若くは親國の如くに

好ましいスペイン女性に能く

(マドリッド)スペイン(系)同遊

「身と砂」カルクス(國)情熱の文

イノ、親國のスペインを化し、

老幼難く、我々路に馳せ、

み。秋、砂をく、此朝、つスペイン女

性、参院、光平に、男性に、仲、國

の、た、め、に、教、ふ、理、を、い、三、能、く。

寫、考、は

一、ス、ペ、イ、ン、女、性、三、能、く



同盟写真立入(特殊写真)

〇スケツケ

◎ 秋色

東京市外所見

一重多一士年八月廿三日



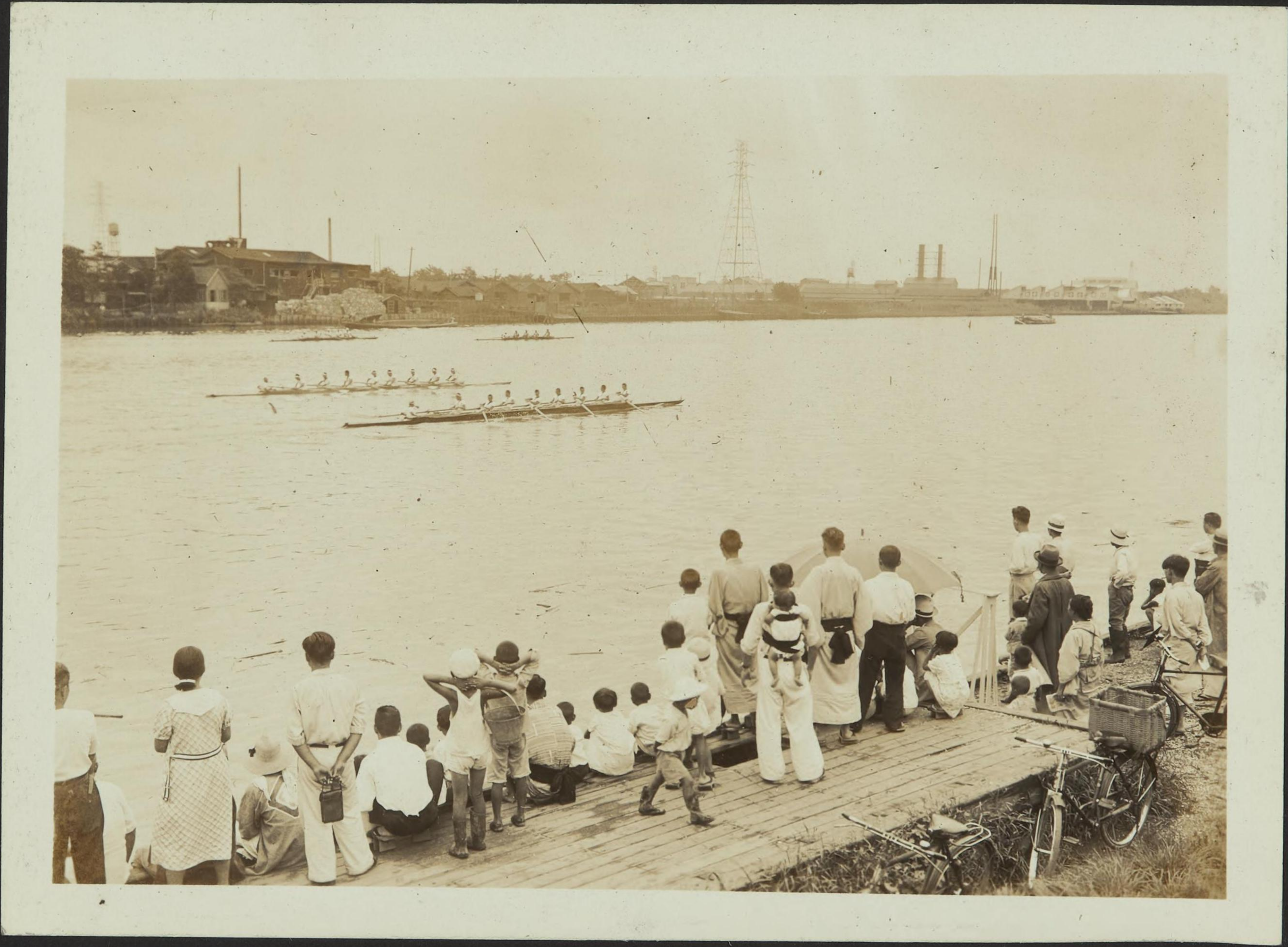
田邊字集三ノ一ノ二 第三号

潜艇日本の新暗戦

展覧レカク文庫

田邊字集三ノ一ノ二

未だ十二、三回日軍が来たる潜艇は
年中ありとの見方といふこと 固くも學生
運手板を渡したるの如く然るに展覧会
は、二年三月十日から、展覧会台
橋下橋千本通りと在りて、早大球一高
一ノ一から大蓋を印する
(田邊字集三ノ一ノ二)



同盟書身三下不 功一

聯合總政威風堂之入端

積須贊人之士年八百二千四日

高橋司令長官坐變聯合艦隊以

平官年身八的威風堂之入港 積須

司令長官身內持日立 艦隊總司令

司令長官司令長官身下長門口之橋

司令長官司令長官身下長門口之橋

司令長官司令長官身下長門口之橋

司令長官司令長官身下長門口之橋

司令長官司令長官身下長門口之橋

司令長官司令長官身下長門口之橋

司令長官

司令長官司令長官身下長門口之橋

長門艦上之橫須吹鑿守村檢閱橋



